

天国とはどの様な所？

取得元の記事: <http://www.godandscience.org/doctrine/heaven.html>

著者/ 翻訳者: By Rich Deem/ translated by Ted Imoto

前置き：

人々は天国とはどの様な所かと良く聞きます。天国について聖書は話し合うけれど、その充実した特徴は人間の考え方としてとても理解出来ない。神が住む所だから天国は、この神が造られた宇宙よりも、もっと自然の法則により世間的な広がり面積を持った所だろうか、我々の今のこの身体では、その特別な面積がどの位の大きさか見当も出来ず、ましてや体験する事は出来ません。たとえそうでも聖書は天国に関して十分な情報を、我々の生活に比べてどう違うか、理解できるように与えています。ここに述べる情報は多少推測（別の解釈も可能）ですが聖書が述べている天国です。

第七日目の終

創世記、旧約聖書の第一書、で神は六日でこの宇宙を創造したと言っています¹。宇宙の創造について述べる聖書の節を顧みるに、この意味は六段階の時間、六時代にわたって、神がこの宇宙、地球、そして地球の生き物を創造したと世人は結論を下しています。聖書言わく我々は今、残りの七日目で²、神はその残りを我々が有効に過ごすよう我々を元気づけている³。第七日目の神の御計画は全人類の為、沢山⁴の霊的な存在（天使や人間）に来世（死後に始まる）を神と共に過ごせる道を選べるよう時間を与える為です⁵。約束された時が来れば、神はこの宇宙に終わりをもたらして⁶、神のこの勧誘を無視拒絶した人々に審判を下すと言っています⁷。

第八日目

神は第八日目に、今度はまったく新しく、宇宙を再び創造されます⁸。その新しい宇宙は今と全然違った物理学上の法則を持っているそうです。ここにその目立った違いを上げてみましょう：

1. その新しい地球には海が無いでしょう⁸。
2. そこには太陽も月も無いでしょう⁹。
3. 重力も無く在ってもいちじるしく縮小されているでしょう¹⁰。
4. そこには最早、死も、苦しみも、痛みも、無いでしょう¹¹。
5. 信者は新しい身体を受け取るでしょう¹²。

天国の特質

新しく造られた宇宙（天国と地球）の特質は住み慣れた地球に比べ非常に異なります。おそらく一番目立つ違いは重力の無い事でしょう。新しい都市ジェルサレムは 1,500 マイルキューブと言われています¹⁰。このサイズの構造ですとその重量の為此の宇宙では自動的に球形になります。だからこの新しい宇宙では重量が無いが、有れば著しく減少された状態でしょう。そこには太陽も月も無いだろう。殆んど重力がないからこの現象の意味は解りやすい。この新しい宇宙は重力無しだからその熱や光の源に縛られないだろう。新しい宇宙にとって太陽の欠乏は問題ではありません、何故なら神御自身の栄光が照明を与えると聖書は言っています¹³。その神から与えられた照明は¹⁴たぶん我々が光と呼ぶ電磁気の放射熱（フォトン）と同じ種類ではないだろう。その神から与えられた照明は確かに神の知恵と知識を伴うものだ¹⁵。この種類の光で現に目で物を見る必要は無いだろう、何故なら肉眼で見ることは我々の能力、神が見るように全てを見る能力、をひどく制限するからだ。新しく造られた宇宙には海が無く水の循環も無いでしょう。水の循環は重力無しでは作用は難しい。神の御座から流れる命の水が川にあると言う¹⁶。元をただせば、それは我々の知っている液体の水ではないようです。其処には熱力学の法則が無いようで聖書が言うとおりにこの宇宙には温度が無いようです¹⁷。この宇宙では熱力学第二法則が有りこれが殆んど全ての在り方を支配している。その法則言わく「熱は暑い物から冷たい物に流れる」この経過、熱力を交換すること、これ無しでは星は輝かない、動物が食べ物を食べて動くエネルギーに変えることも、科学的な反応も出来ない、何故ならこれらすべての経過は熱の交換を必要としているからです。この法則はエントロピー（崩壊）の法則とも言われます。何故なら熱の流れの最後の結末はこの宇宙が段々と乱れ朽ち果ててしまう事です。科学が言うには今我々が見る宇宙は仮のもの、間に合わせのものだ。それはちょっとの間の造物で神の仲裁干渉無しでは結局は冷たい生命の無い物を作り広げるだけだ。明らかにこの様な宇宙では上に述べた天国、永遠の人生を預かる住み家、として喜ばれません。前述した様に熱力を交換する経過はこの新しい宇宙には無いようです。

これらは太陽、海、水の循環、年を取る事、そして死ぬことなど含みます。¹¹ 聖書に述べる果物を結ぶ木（命の木）が天国に在るけれど、それは食べる為ではないようです。事実上、聖書言わく「木の葉は国民を癒すためにある¹⁸。」過去、何百年以上この地球で犯された暴力や集団虐殺が許されるとすれば、全ての国民を癒す物が必要でしょう。天国で食べることが無い¹⁹事はそこに熱力学が無い事に関連します。最後に、聖書いわく「その新しい宇宙創造事態が又この奴隷制度から墮落、頽廃まで解放させるでしょう²⁰。」あたかも熱力学の法則が天国には無い事を提案するように。あるキリスト教信者は天国で食事が出来ると思っています。彼らは大きな結婚式での羊の御馳走を引用する。これを文字どおり解釈していいものだろうか？ 勿論のこと、その結婚式で一番大切な事はその御馳走では無く結婚式です。文字通り我々はイエスキリストと肉体的に結婚をするのでしょうか？ たいていの男達はこの概念を心地悪く感じます。我々は天国で我々の救い主イエスキリストとその父・神に差向いで会えます。ここではユダヤ人の結婚式が天国で起こる祝賀会の代表に取り上げられました、何故なら私が思うに、それが一番楽しく長い出来事で人々にメッセージとして伝えられ知られたからです。実際に食べ物を食するか食しないかは別としてその結婚式は誰もが喜ぶ偉大な祝賀会である事は確かです。新しく造られた宇宙はすばらしく美しい場所で貴重な宝石や金属などの言葉で述べられている。この文字通りの地上の宝の説明では良い表現には成らないが、そのすばらしい美を代表する意味で、その美しさの表現はかつて使徒パウロが見た所だろう。この陳述の参照としてヨハネの黙示録、21章、10節-21節を復習してください。

天国の永遠性 (時間を超越した)

天国は時間と空間の両範囲外に存在する。聖書いわく「神は創造された時と時間の外側に存在する。」、おそらく原因と結果を満たす意味で言われた。原因と結果無しでは行動には成らない、選択も影響しない。だからこの宇宙は神を愛するか拒絶するかを人々の為を選ぶ時を与えるため仮に造られたのです。一度その選択（神を選ぶ）が出来れば、もうこの世の時間の存在の必要性が無くなる。だから聖書が「神が今この宇宙を破壊する」と言う時はこの宇宙の時間も含めている。だから実際に何時 貴方が死ぬかと言う事など問題ではありません；貴方は天国に登って先に天国に行った人々と一緒になる（貴方の先祖や子孫も含んだ貴方の前後の人々とも）。我々の時間は天国では制限されていないので貴方の地球での生活を天国から振り返って見る事が出来るだろうか？ おそらく駄目でしょう、何故なら 聖書いわく「以前からの事は思い出せないか記憶には無いでしょう⁸。」神が今のこの宇宙を破壊する時にはそれはまるでこの宇宙が一度も存在しなかった様に振る舞われるでしょう。神でさえそれに立ち入る事は出来ない⁸。時間の無い天国では物事はどの様に起こるのでしょうか？ これはよい質問です！ 此れは明らかに一瞬のうちに起こる！ 其処にはどんな事でも最早待つ事は無い。誰でも何時までも同時にイエスキリストと話す事が出来る。英語の言葉ずかいも天国ではどんな事態か述べる適切な単語を見いだせない。

天国はどこに？

天国が何処に有るのかと聞く事は丁度何処に宇宙の中心が有るのかと聞くようなものです。事実上、宇宙には中心になる物はありません。何故なら全ての物はその他すべての物から離れて動いている。聖書には天国はこの宇宙には存在しないと示し、其処は神の住いであると言う。事実、聖書はそれどころか一番高い所にある天国でも神を含む事は出来ない事を示しています²¹。人間はこの宇宙の空間と時間の範囲の中で制限された存在だから我々は決して宇宙船に乗って行って天国を探す事は出来ません、何故ならそれは我々が旅行して行ける場所ではありません。然し其処に行く道はあります。

天国に住む人々はどの様な人？

物理学上の法則が全く違う天国の様な場所には我々の今の身体は受け付けられません²²。聖書は次の質問を提出しています：然し、ある人は言うだろう。「どんなふうにして、死人がよみがえるのか。どんなからだをして来るのか」。(コリント人への手紙第一 15:35). この質問の答えは次のように比較してみると解りやすい²³。

死ぬ運命の身体と天国の身体	
死ぬ運命の身体	天国の 身体
滅びる／腐敗する	不滅の／腐敗しない
不名誉な／侮辱する	名誉な／栄光の
弱い／劣る	強い／有力な
自然の／生まれつきの	精神的な／霊的な

我々は栄光を授けられたイエスキリスト自身の様になれるようにある程度まで天国にいらっしゃる神のある特質が我々に与えられています²⁴。それは少なくとも我々が神に会えるよう神の寸法的な特質を持っていると聖書は言っています²⁴。モルモン教徒の天国の見解に反しますが²⁵ 天国にいる人々は男か女か何方かと言う事は無いようです。この結論は直接サドカイ教徒（死の復活を信じない宗教分派）がイエスキリストに複雑な質問をし、イエスキリストがこれに答えた中にあります²⁶。サドカイ教徒達はイエスキリストに次のような筋書きの一人の女の場合を取り上げました。彼女は生涯七人の男と結婚した、何故なら男達は皆な引き続き早死してしまったから。この場合、彼女は天国では誰の妻だろうかと彼らはイエスキリストに質問しました。²⁹ イエスキリスト曰く「³⁰ 君たちは思い違いをしている、聖書の言葉 神の力を理解していない、復活の時には人はめとることも、嫁ぐこともなく天の御使い達のです。」(マタイによる福音書 22:29,30) すなわち、天国では再生する必要が無いので其処には性的な相違も結婚ありません。この概念、コンセプトは他の聖書の節に示す「男と女は靈的に相等しい」によって確認されている²⁷。このコンセプトは人種にも適用できます²⁸。私は天国で人種差別があるとは思いません。天国では最早めとることも嫁ぐこともないと言う考えはある人々を遺憾に思わせます。個人的に言って私は天国でも結婚したい。この世の見方からして、天国での結婚生活の解消は良い事に聞こえない、聞こえが悪い。しかしながら天国では我々はイエスキリストを我々の靈的な支えとして結婚しています²⁹。もしあなたが今イエスキリストの信者でなかったら、このことがどんな事か解らず、それは貴方に懇願されるほどでは無いでしょう。然し、もしあなたが今イエスキリストに導かれ信者として最高さを経験しているならば貴方はそれとなくその素晴らしい経験を感じる事でしょう。神は良い物が有れば其れよりも良い物無しではそれを除く事はしないでしょ。天国に入る人々は新しい身体を貰う他に新しい名前が与えられ³⁰ そして最早罪を犯すことが出来なくなるでしょう³¹。だから我々が持つ全ての問題、例えば、互いに卑劣な事など無くなります。我々はお互い其々の交際を誰とでも恐れ無く楽しむことが出来ます。物理学的にも道徳的にも完全で他と同じ様に一変せられた人々と仲間になることは偉大なことです。

天国で我々は何をするのか？

天国で雲の上に乗ってハーブをひいて居る様な印象を人々は持っている。ある天使や 24 人の年老者や聖人達が天国でハーブを持っていたと述べられているが然し聖書は雲状のものを述べてはいない³²。まず、最初に我々が天国でする役目・行為の一つは、地上界の特にその天使たちの審判を手助けする事³³。どうして天使たちを審判する必要があるのでしょうか？ 神は地球を造る前に天使たちを先に創造された、その天使たちは初めは皆神を礼拝していた³⁴、その天使たちは最も美しい天使魔王によって導かれていた³⁵。然しながらその魔王（サタン悪霊悪魔）は神に嫉妬をし始めその地位を求めようになった³⁵。そのサタンは如何にかしてこの謀反に加えるように三分の一の天使を納得させた³⁶。この時点で天国には謀反を起こしたサタン（とサタンについて天使）と大天使マイケルの間で戦争が起きていた³⁶。サタンとその天使は天国から地上にほうられ³⁶、其処で彼らは人間を神から離れるよう（神に対しての謀反に従うよう）説得を試みる³⁷。これらの謀反に加わった天使たちは今では悪魔と呼ばれている³⁸。それ以来天国には反逆者はいないので神に対して謀反を起こした天使は神の人々（天国に行った我々）によって審判され火の海へ投げ捨てられる³⁹。天国で審判をするほかに聖書は言う、我々は天国で神と共に天国を支配する⁴⁰。この支配が全く何を必要とするかは明らかにされていない。しかしながら我々はまたその上、直接に神に仕えるのでしょ⁴¹。これは一見うんざりするかもしれないが明らかにそうではない、何故なら、我々はこの宇宙の創造者に直接参加する権利を貰えるからだ。ヨハネの黙示録で聖書は明白に言う、「イエスキリストが我々の羊飼いで我々を自ら案内します¹¹。」コリント人への手紙（第一）で使徒パウロはこう言っている「我々は面と向かってイエスキリストを見られ、今では彼を幾分知っているが、その時が来ればちょうど私が全てを知られているように私は全てを知るだろ⁴¹。」これは素晴らしい！無神論者がどうしてこれに加わらないのか私は戸惑います。へブル人への手紙で聖書は述べる「天国は喜びに満ちた大勢の天使の集まりから成っている⁴²。」だから天国は大いに祝賀するところ、然しそこは正義で平和の場所である事を我々は知っている⁴³。聖書は言う「我々は天国がどの様な所か想像できません、然しそれは我々の期待を越えるでしょう。」天国に居る我々各自は栄光に満ちるだろうと黙示されています⁴⁴。

誰が天国にいるだろうか？

明らかに天国は神の国だから神は居る。注目すべき事は我々が神をそこで見る機会が⁴⁵ 訪れそしてありのままの神を其処で見ることです²⁴。誰が神と天国に居るのだろうか？ 天使達（良い天使）はそこに神が造られてからずっといる⁴⁶。聖書は誰が天国に住めないか、どんな人が天国から遠ざけられるか幾つかの罪のリストをあげています⁴⁷。人々を天国に入れられない行いをまとめて以下の表に示しました。

天国から遠ざける罪			
性的不品行	偶像崇拜	姦通、不義	売春
同性愛の違反行為	盗み	貪欲	飲んだくれ
中傷悪口	詐欺	不純な行為	魔法使い
嫌悪、憎しみ	不和、仲たがい	嫉妬、ねたみ	激怒の発作
利己的な野望	紛争	内紛 争いねたみ	乱飲乱舞
憎悪 大嫌い	嘘つき	臆病 卑怯	不信仰
殺人者	魔術		

このリストはかなり広い範囲にわたっていて、我々全ての人がある程度やっている事が含まれています。我々はこの最初の宇宙創造の終わり（世の終わり）に偉大な神の白い御座の前に姿を見せることになっている⁴⁸。神は我々が上記のような罪を犯したか「ラムの（神の）本」を良く調査する⁴⁹。更に我々の名前が「ラムの命の本」に書いてあるか調べる。その「ラムの命の本」に見出せない人はその罪深い行為を人生にやったことで誰でも火の海に投げ込まれる⁵⁰。神はその罪の度合いを測りにかけないから上記のどの違反行為に対しても有罪であればその全ての人々は火の海に送られるでしょう。これが二度目の死です⁵¹。然しキリストの信者はこの裁判を逃れられ天国で永遠の生活を受け継ぐ（以下参照）⁵²。

どのように我々が天国に達するのか？

そう、どう天国に入り聖なる神と対面出来るのでしょうか？ 我々が自分で出来ない事は神がすでになさっています。イエスキリストいわく「人は二度 生まれ無ければ神の国を見る事は出来ない⁵³。」イエスはその二度目の誕生は「霊的に産まれる」事と説明しました。ただ一度産まれた人は肉体的に死ぬでしょう、そして偉大な神の白い御座の前の審判によって⁴⁸二度目の死で精神的に又霊的に死ぬでしょう⁵¹。二度生まれた人（肉体的にそして霊的に）は肉体的に一度だけ死ぬけれど霊的に永遠に生きるでしょう。人々はこう聞く「二度目にどう霊的に生れるのですか？」 イエスいわく「神は実にその一人子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠の命を持つためである。」⁵²

イエスを信じることに依って白い御座の前の審判を取り除く事が出来ます⁵⁴、何故なら、イエスが十字架において我々の罪のために死の刑罰を代わりに取って下さったからです⁵⁵。イエスをわが主・救い主として受け入れる人々は神の前で信仰を基にした正義を宣言しています⁵⁶。そして神が我々全てに提供した⁵⁹神の恵み⁵⁸を通して彼らは大胆に⁵⁷神の前に来られます。イエスをわが主・救い主として受け入れる事によって我々は神に完全な存在「全うされた義人たちの霊」⁶⁰として天国で住めるよう我々を変えて貰う事を許しています。罪の為に神が用意された事を拒む人々は彼らの罪によって審判され神から永久に見離されるでしょう（第二の死⁵¹）、何故なら罪を天国に持って行く事を神は許されません⁵¹。

イエスとの関係に我々はどうやって入り込むのでしょうか？ 我々はこれを信仰、次の様に信じることで近づきます：まずは貴方の罪と自分本意を懺悔します。懺悔とは自分が間違っていると神に同意し、今からこの古い生活からキリストによる新しい生活に切り替える事を神と約束することです⁶¹。そしてイエスキリストを貴方の主（神とマスター）、そして救い主（罪を取り去る）として受け入れること。そして神が貴方の新しい生活を助けてくれると約束された聖霊を受け取ること⁶²。そして貴方が頂いた神の恵み（罪の許し）とフリー贈物（聖霊）に感謝すること。

一度、イエスキリストを貴方の主・救い主と受け入れた貴方はいつもイエスと一緒に歩くべきです。イエスいわく「貴方が私を愛すなら貴方は私の掟を守るでしょう。⁶³」彼と毎日祈りの中で話し、そして彼が言う事をしなさい。良いクリスチヤンの教会を探して聖書を読みなさい。これ等のことは直接、貴方の救済手段、救いを守る事に必要無いけれどイエスと歩くのに貴方の信仰と服従を助け、より多くの喜びを経験出来ます。我々が天国で神の御座の前に来る時「よくやった…」と言うような言葉を聞かれたらよいものだ⁶³。

参照

- ¹¹それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中に居る全てのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。(出エジプト記 20:11)
- その創世記にある七日目はまだ終わってはいません。¹³こうして夕があり、あさがあった。第三日、¹⁹こうして夕があり、あさがあった。第四日、²³こうして夕があり、あさがあった。第五日、³¹こうして夕があり、あさがあった。第六日。(創世記 1:13,19,23,31)
- ⁴すなわち、聖書のある箇所、七日目のことについて、「神は、七日目にすべてのわざをやめて休まれた」と言われており、⁵またここで、「彼らをわたしの安息に、はいらせることはしない」と言われている。⁶そこで、その安息にはいる機会が、人々になお残されているのであり、しかも、初めに福音を伝えられた人々は、不従順のゆえに、はいることをしなかったのであるから、⁷神は、あらためて、ある日を「きょう」として定め、長く時がたってから、先に引用したとおり、「きょう、み声を聞いたなら、あなたがたの心を、かたくなにはしてはいけない」とダビデをとおして言われたのである。⁸もしヨシュアが彼らを休ませていたとすれば、神はあとになって、ほかの日のことについて語られたはずはない。⁹こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。¹⁰なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もわざを休んだからである。¹¹したがって、わたしたちは、この安息にはいるように努力しようではないか。そうでないと、同じような不従順の悪例にならって、落ちて行く者が出るかもしれない。(ヘブル人への手紙 4:4-11)
- ⁹その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手を持って、御座と小羊との前に立っていた。¹⁰彼らは大声で叫んで言った、「救いは、御座にある私達の神にあり、小羊にある」。¹¹御使たちはみな、御座と長老たちと四つの生き物とのまわりに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を拝して言った、(ヨハネの黙示録 7:9-11)
- ²³主人は僕に言った、「道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱってきなさい。²⁴言っておくが、あの招待されていた人たちの中で、私の食事を味わう者は一人もいないのです。」(ルカの福音書 14:23,24)
- しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである。¹⁰しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくさるであろう。¹²極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。(ペテロの手紙第二 3:7,10,12)
¹⁸よく言っておく。天地が減び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。(マタイの福音書 5:18)
³¹天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。(マルコの福音書 13:31)
³³天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は決して滅びることがない。(ルカの福音書 21:33)
²⁶あの時には、御声が地を震わせた。しかし今は、約束して言われた、「わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう」。²⁷この「もう一度」という言葉は、震われないものが残るために、震われるものが、造られたものとして取り除かれることを示している。(ヘブライ人への手紙 12:26,27)
⁴天の万象は衰え、もろもろの天は巻物のように巻かれ、その万象はぶどうの木から葉の落ちるように、いちじくの木から葉の落ちるように落ちる。(イザヤ書 34:4)
- ¹¹また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。¹²また、死んでいた者が、大なる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。¹³海はその中にいる死人を出し、死も黄泉(よみ)もその中にいる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じて、さばきを受けた。¹⁴それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。¹⁵このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。(ヨハネの黙示録 20:11-15)
- ¹⁷見よ、わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。さきの事はおぼえられることなく、心に思い起すことはない。(イザヤ書 65:17)
¹³しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。(ペテロの手紙第二 3:13)

- ¹ わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。
(ヨハネの黙示録 21:1)
9. ²³ 都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。
(ヨハネの黙示録 21:23)
10. ² また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。¹⁶ 都は正方形であって、その長さとは幅とは同じである。彼がその測りざおで都を測ると、一万二千丁であった。長さとは幅とは高さとは、いずれも同じである。(ヨハネの黙示録 21:2,16)
11. …¹⁷ 御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいとして下さるであろう」。(ヨハネの黙示録 7:17)
- ⁴ 人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。(ヨハネの黙示録 21:4)
12. ⁴² 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、⁴³ 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、⁴⁴ 肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。
(コリント人への手紙第一 15:42,43,44)
13. ²³ 都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。
(ヨハネの黙示録 21:23)
14. ⁵ 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらぬ。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。(ヨハネの黙示録 22:5)
15. ²⁸ あなたはわたしのともしびをともし、わが神、主はわたしのやみを照されます。(詩篇 18:28)
- ⁹ いのちの泉はあなたのもとにあり、われらはあなたの光によって光を見る。(詩篇 36:9)
- ¹⁰⁵ あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。(詩篇 119:105)
- ¹² イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。(ヨハネの福音書 8:12)
- ⁵ わたしたちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない。(ヨハネの手紙第一 1:5)
16. ¹ 御使はまた、水晶のように輝いているいのちの水の川をわたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、…(ヨハネの黙示録 22:1)
- ¹³ またイスラエルの望みである主よ、あなたを捨てる者はみな恥をかき、あなたを離れる者は土に名をしるされます。それは生ける水の源である主を捨てたからです。(エレミヤ書 17:13)
- ⁸ その日には、生ける水がエルサレムから流れ出て、その半ばは東の海に、その半ばは西の海に流れ、夏も冬もやむことがない。(ゼカリヤ書 14:8)
- …³⁸ わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう」。
(ヨハネの福音書 7:38)
17. ¹⁶ 彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。
(ヨハネの黙示録 7:16)
18. 都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。(ヨハネの黙示録 22:2)
19. 神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである。(ローマ人への手紙 14:17)
20. ²⁰ なぜなら、被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させたかたによるのであり、²¹ かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。²² 実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、わたしたちは知っている。(ローマ人への手紙 8:20,21,22)
21. ²⁷ しかし神は、はたして地上に住まわれるのでしょうか。見よ、天も、いと高き天もあなたをいれることはできません。ましてわたしの建てたこの宮はなおさらです。(列王記第一 8:27)
- ² しかし、天も、諸天の天も彼を入れることができないのに、だれが彼のために家を建てることができますでしょうか。わたしは何者ですか、彼のために家を建てるというのも、ただ彼の前に香をたく所に、ほかならないのです。
(歴代誌第二 2:6)
22. 兄弟たちよ。わたしはこの事を言うておく。肉と血とは神の国を継ぐことができないし、朽ちるものは朽ちないものを継ぐことがない。(コリント人への手紙第一 15:50)

- 23.⁴² 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、⁴³ 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、⁴⁴ 肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。
(コリント人への手紙第一 15:42,43,44)
- ¹ わたしたちの住んでいる地上の幕屋がこわれると、神からいただく建物、すなわち天にある、人の手によらない永遠の家が備えてあることを、わたしたちは知っている。² そして、天から賜わるそのすみを、上に着ようと切に望みながら、この幕屋の中で苦しみもだえている。³ それを着たなら、裸のままではいけないことになろう。⁴ この幕屋の中にいるわたしたちは、重荷を負って苦しみもだえている。それを脱ごうと願うからではなく、その上に着ようと願うからであり、それによって、死ぬべきものがいのちのちにのまれてしまうためである。
(コリント人への手紙第二 5:1,2,3,4)
- 24.² 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。(ヨハネの手紙第一 3:2)
- ²⁰ しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。²¹ 彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。(ピリピ人への手紙 3:20,21)
25. モルモン教徒(末日聖徒のキリスト教会)は、従順なモルモンの男性は天国で神になれて彼等自身の王国と妻をもてると信じた。事実、近所の人が最近、彼が自分の王国の神になるとき、私の妻に彼の女王になるように申し出た。彼女がしなければならなかった唯一のことは、モルモン教会でバプテスマを受けなければならなかったことでしたが彼女は申し出を断った。
- 26.²³ 復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、その日、イエスのもとにきて質問した、²⁴ 「先生、モーセはこう言っています、『もし、ある人が子がなくて死んだなら、その弟は兄の妻をめぐって、兄のために子をもうけねばならない』。²⁵ さて、わたしたちのところに七人の兄弟がありました。長男は妻をめぐって死んでしまい、そして子がなかったのので、その妻を弟に残しました。²⁶ 次男も三男も、ついに七人とも同じことになりました。²⁷ 最後に、その女も死にました。²⁸ すると復活の時には、この女は、七人のうちだれの妻なのでしょう。みんながこの女を妻にしたのですが」。²⁹ イエスは答えて言われた、「あなたがたは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。³⁰ 復活の時には、彼らはめとったり、とついでりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。(マタイの福音書 22:23,24,25,26,27,28,29,30)
- 27.²⁸ もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。(ガラテヤ人への手紙 3:28)
- 28.¹² ユダヤ人とギリシヤ人との差別はない。同一の主が万民の主であって、彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んで下さるからである。(ローマ人への手紙 10:12)
- ¹¹ そこには、もはやギリシヤ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開の人、スクテヤ人、奴隷、自由人の差別はない。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにいますのである。(コロサイ人への手紙 3:11)
- 29.¹⁷ 御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいとして下さるであろう」。(ヨハネの黙示録 7:17)
- ⁷ わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。
(ヨハネの黙示録 19:7)
- ⁹ それから、御使はわたしに言った、「書きしるせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。またわたしに言った、「これらは、神の真実の言葉である」。(ヨハネの黙示録 19:9)
- ⁹ 最後の七つの災害が満ちている七つの鉢を持っていた七人の御使のひとりが出てきて、わたしに語って言った、「さあ、きなさい。小羊の妻なる花嫁を見せよう」。(ヨハネの黙示録 21:9)
- ³¹ 「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。」³² この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしている。(エペソ人への手紙 5:31,32)
- ⁵ あなたを造られた者はあなたの夫であって、その名は万軍の主。あなたをあがなわれる者は、イスラエルの聖者であって、全地の神となえられる。(イザヤ書 54:5)
- 30.¹⁴ 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者には、隠されているマナを与えよう。また、白い石を与えよう。この石の上には、これを受ける者のほかだれも知らない新しい名が書いてある」。
(ヨハネの黙示録 2:17)

31. ²⁵ 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。²⁶ キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、²⁷ また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。(エペソ人への手紙 5:25,26,27)
- ¹³ しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。
(ペテロの手紙第二 3:13)
- ¹¹ その日には、あなたはわたしにそむいたすべてのわざのゆえに、はずかしめられることはない。その時わたしはあなたのうちから、高ぶって誇る者どもを除くゆえ、あなたは重ねてわが聖なる山で、高ぶることはない。
(ゼファニヤ書 3:11)
32. ² またわたしは、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。(ヨハネの黙示録 14:2)
- ⁸ 巻物を受けとった時、四つの生き物と二十四人の長老とは、おのおの、立琴と、香の満ちている金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒の祈である。(ヨハネの黙示録 5:8)
- ² またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。³ 彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、「全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。⁴ 主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者が、ありましようか。あなただけが聖なるかたであり、あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。あなたの正しいさばきが、あらわれるに至ったからであります」。(ヨハネの黙示録 15:2,3,4)
33. ² それとも、聖徒は世をさばくものであることを、あなたがたは知らないのか。そして、世があなたがたによってさばかれるべきであるのに、きわめて小さい事件でもさばく力がないのか。³ あなたがたは知らないのか、わたしたちは御使をささえさばく者である。ましてこの世の事件などは、いうまでもないではないか。
(コリント人への手紙第一 6:2,3)
34. 聖書によると、神の息子たち(すなわち、サタンを含むすべての天使)は、地球の創造に喜びを叫びました。しかし、サタンは人間が創造される頃には墮落していました。
⁴ わたしが地の基をすえた時、どこにいたか。もしあなたが知っているなら言え。⁷ かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった。(ヨブ記 38:4,7)
35. ¹² 「人の子よ、ツロの王のために悲しみの歌をのべて、これに言え。主なる神はこう言われる、あなたは知恵に満ち、美のきわみである完全な印である。¹³ あなたは神の園エデンにあって、もろもろの宝石が、あなたをおおっていた。すなわち赤めのう、黄玉、青玉、貴かんらん石、緑柱石、縞めのう、サファイヤ、ざくろ石、エメラルド。そしてあなたの象眼も彫刻も金でなされた。これらはあなたの造られた日に、あなたのために備えられた。¹⁴ わたしはあなたを油そそがれた守護のケルブと一緒に置いた。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いた。¹⁵ あなたは造られた日から、あなたの中に悪が見いだされた日までは、そのおこないが完全であった。¹⁶ あなたの商売が盛んになると、あなたの中に暴虐が満ちて、あなたは罪を犯した。それゆえ、わたしはあなたを神の山から汚れたものとして投げ出し、守護のケルブはあなたを火の石の間から追い出した。¹⁷ あなたは自分の美しさのために心高ぶり、その輝きのために自分の知恵を汚したゆえに、わたしはあなたを地に投げうち、王たちの前に置いて見せ物とした。¹⁸ あなたは不正な交易をして犯した多くの罪によってあなたの聖所を汚したゆえ、わたしはあなたの中から火を出してあなたを焼き、あなたを見るすべての者の前であなたを地の上の灰とした。
(エゼキエル書 28:12,13,14,15,16,17,18)
36. ³ また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、大きな、赤い龍がいた。それに七つの頭と十の角とがあり、その頭に七つの冠をかぶっていた。⁴ その尾は天の星の三分の一を掃き寄せ、それらを地に投げ落した。龍は子を産もうとしている女の前に立ち、生れたなら、その子を食い尽くそうとかまえていた。⁵ 女は男の子を産んだが、彼は鉄のつえをもってすべての国民を治、めるべき者である。この子は、神のみもとに、その御座のところに、引き上げられた。⁶ 女は荒野へ逃げて行った。そこには、彼女が千二百六十日のあいだ養われるように、神の用意された場所があった。⁷ さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、⁸ 勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。⁹ この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。(ヨハネの黙示録 12:3,4,5,6,7,8,9)

- 37.⁴⁴ あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。
(ヨハネの福音書 8:44)
- ² 夕食のとき、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが、
(ヨハネの福音書 13:2)
- ³ そこで、ペテロが言った、「アナニヤよ、どうしてあなたは、自分の心をサタンに奪われて、聖霊を欺き、地所の代金をごまかしたのか。(使徒行伝 5:3)
- ⁵ 互に拒んではいけない。ただし、合意の上で祈りに専心するために、しばらく相別れ、それからまた一緒になることは、さしつかえない。そうでないと、自制力のないのに乗じて、サタンがあなたがたを誘惑するかも知れない。
(コリント人への手紙第一 7:5)
- ¹⁰ もしあなたがたが、何かのことについて人をゆるすなら、わたしもまたゆるそう。そして、もしわたしが何かのことでゆるしたとすれば、それは、あなたがたのためにキリストのみまえでゆるしたのである。¹¹ そうするのは、サタンに欺かれることのないためである。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない。
(コリント人への手紙第二 2:10,11)
- ¹¹ 悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。¹² わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。
(エペソ人への手紙 6:11,12)
- ⁷ そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。(ヤコブの手紙 4:7)
- ⁸ 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。⁹ この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、抵抗しなさい。あなたがたのよく知っているとおりに、全世界にいるあなたがたの兄弟たちも、同じような苦しみの数々に会っているのである。
(ペテロの手紙第一 5:8,9)
- ⁹ この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。(ヨハネの黙示録 12:9)
- 38.¹⁸ そこでサタンも内部で分裂すれば、その国はどうして立ち行けよう。あなたがたはわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出していると言うが、¹⁹ もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによって追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。²⁰ しかし、わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。
(ルカの福音書 11:18,19,20)
- 39.⁴¹ それから、左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいってしまえ。(マタイの福音書 25:41)
- ¹⁰ そして、彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄との池に投げ込まれた。そこには、獣もにせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである。(ヨハネの黙示録 20:10)
- 40.¹⁰ わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上を支配するに至るでしょう」
(ヨハネの黙示録 5:10)
- ¹⁴ わたしは彼に答えた、「わたしの主よ、それはあなたがご存じです」。すると、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。¹⁵ それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まれるであろう。(ヨハネの黙示録 7:14,15)
- 41.¹² わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。(コリント人への手紙第一 13:12)
- 42.²² しかしあなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の天使の祝会、²³ 天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者なる神、全うされた義人の霊、²⁴ 新しい契約の仲保者イエス、ならびに、アベルの血よりも力強く語るそそがれた血である。²⁵ あなたがたは、語っておられるかたを拒むことがないように、注意しなさい。もし地上で御旨を告げた者を拒んだ人々が、罰をのがれることができなかつたら、天から告げ示すかたを退けるわたしたちは、なおさらそうなるのではないか。

- ²⁶あの時には、御声が地を震わせた。しかし今は、約束して言われた、「わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう」。²⁷この「もう一度」という言葉は、震われないものが残るために、震われるものが、造られたものとして取り除かれることを示している。²⁸このように、わたしたちは震われない国を受けているのだから、感謝をしようではないか。そして感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。²⁹わたしたちの神は、実に、焼きつくす火である。(ヘブル人への手紙 12:22,23,24,25,26,27,28,29)
- 43.**¹³しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。(ペテロの手紙第二 3:13)
- ¹⁷しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。(ヤコブの手紙 3:17)
- 44.**¹⁸わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。(ローマ人への手紙 8:18)
- ⁹しかし、聖書に書いてあるとおり、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。(コリント人への手紙第一 2:9)
- ¹²わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。(コリント人への手紙第一 13:12)
- ¹⁷なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。¹⁸わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。(コリント人への手紙第二 4:17,18)
- ²⁰しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。²¹彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。(ピリピの信徒への手紙 3:20,21)
- ⁴わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。(コロサイ人への手紙 3:4)
- ¹そこで、あなたがたのうちの長老たちに勧める。わたしも、長老のひとりで、キリストの苦難についての証人であり、また、やがて現れようとする栄光にあずかる者である。(ペテロの手紙第一 5:1)
- ¹⁰あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふるる恵みの神は、しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。(ペテロの手紙第一 5:10)
- 45.**³また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、⁴人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。(ヨハネの黙示録 21:3,4)
- 46.**¹¹さらに見ていると、御座と生き物と長老たちとのまわりに、多くの御使たちの声が上がるのを聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍もあって、(ヨハネの黙示録 5:11)
- 47.**⁹それとも、正しくない者が神の国をつぐことはないのを、知らないのか。まちがってはいけない。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、¹⁰欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者は、いずれも神の国をつぐことはないのである。(コリント人への手紙第一 6:9,10)
- ¹⁹肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、²⁰偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、²¹ねたみ、泥酔、宴楽、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言うておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。(ガラテヤ人への手紙 5:19,20,21)
- ⁸しかし、おくびょうな者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である」。(ヨハネの黙示録 21:8)
- 48.**¹¹また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。(ヨハネの黙示録 20:11)
- 49.**¹²また、死んでいた者が、大なる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。(ヨハネの黙示録 20:12)
- 50.**¹⁵このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。(ヨハネの黙示録 20:15)
- しかし、汚れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決してはいれない。はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである。(ヨハネの黙示録 21:27)

- 51.¹¹ 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者は、第二の死によって滅ぼされることはない』。(ヨハネの黙示録 2:11)
- ⁶ この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。(ヨハネの黙示録 20:6)
- ¹⁴ それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。(ヨハネの黙示録 20:14)
- ⁸ しかし、おくびょうな者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である」。(ヨハネの黙示録 21:8)
- 52.²⁹ おおよそ、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、もしくは畑を捨てた者は、その幾倍もを受け、また永遠の生命を受けつぐであろう。(マタイの福音書 19:29)
- ¹⁶ 神はそのひとり子を賜わたったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネの福音書 3:16)
- ³⁶ 御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。(ヨハネの福音書 3:36)
- ²⁴ よくよくあなたがたに言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわされたかたを信じる者は、永遠の命を受け、またさばかれることがなく、死から命に移っているのである。(ヨハネの福音書 5:24)
- ³⁹ あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。(ヨハネの福音書 5:39)
- ²⁷ 朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである」。(ヨハネの福音書 6:27)
- ⁴⁰ わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」。(ヨハネの福音書 6:40)
- ⁴⁷ よくよくあなたがたに言うておく。信じる者には永遠の命がある。(ヨハネの福音書 6:47)
- ²⁷ わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。²⁸ わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。(ヨハネの福音書 10:27,28)
- ³ 永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたをつかわされたイエス・キリストとを知ることです。(ヨハネの福音書 17:3)
- ²¹ それは、罪が死によって支配するに至ったように、恵みもまた義によって支配し、わたしたちの主イエス・キリストにより、永遠のいのちを得させるためである。(ローマ人への手紙 5:21)
- ²³ 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。(ローマ人への手紙 6:23)
- ¹⁶ しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限りない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである。(テモテへの手紙第一 1:16)
- ⁵ わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。⁶ この聖霊は、わたしたちの救主イエス・キリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた。⁷ これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである。(テトスへの手紙 3:5,6,7)
- ²³ 御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。²⁴ 初めから聞いたことが、あなたがたのうちに、とどまるようにしなさい。初めから聞いたことが、あなたがたのうちにとどまっておれば、あなたがたも御子と父とのうちに、とどまることになる。²⁵ これが、彼自らわたしたちに約束された約束であって、すなわち、永遠のいのちである。(ヨハネへの手紙第一 2:23,24,25)
- ²⁵ これが、彼自らわたしたちに約束された約束であって、すなわち、永遠のいのちである。(ヨハネへの手紙第一 2:25)
- ¹¹ そのあかしとは、神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。(ヨハネへの手紙第一 5:11)
- ¹³ これらのことをあなたがたに書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。(ヨハネへの手紙第一 5:13)

- ²⁰ さらに、神の子がきて、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、知っている。そして、わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおるのである。このかたは真実な神であり、永遠のいのちである。(ヨハネへの手紙第一 5:20)
- ²¹ 神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。(ユダの手紙 1:21)
53. ³ イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。(ヨハネの福音書 3:3)
54. ¹⁸ 彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。(ヨハネの福音書 3:18)
55. ¹⁸ 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。(コリント人への手紙第一 1:18)
- ¹⁶ 十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。(エペソ人への手紙 2:16)
- ²⁰ そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。(コロサイ人への手紙 1:20)
- ¹⁴ 神は、わたしたちを責めて不利におとしいれる証書を、その規定もろともぬり消し、これを取り除いて、十字架につけてしまわれた。(コロサイ人への手紙 2:14)
56. ²⁸ わたしたちは、こう思う。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるのである。(ローマ人への手紙 3:28)
- ¹⁷ 神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、「信仰による義人は生きる」と書いてあるとおりである。(ローマ人への手紙 1:17)
- ²² それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。(ローマ人への手紙 3:22)
- ²⁴ 彼らは、働なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。²⁵ 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、(ローマ人への手紙 3:24,25)
57. ¹⁶ だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。(ヘブル人への手紙 4:16)
58. ⁷ わたしたちは、御子にあつて、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。(エペソ人への手紙 1:7)
- ⁸ あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。(エフェソの信徒への手紙 2:8)
59. ¹¹ すべての人を救う神の恵みが現れた。(テトスへの手紙 2:11)
- ²² それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。(ローマ人への手紙 3:22)
- ⁹ ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。(ペテロへの手紙第二 3:9)
60. ²² しかしあなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の天使の祝会、²³ 天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者なる神、全うされた義人の霊、(ヘブル人への手紙 12:22,23)
61. ¹⁷ だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。(コリント人への手紙第二 5:17)
- ²⁴ 真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。(エペソ人への手紙 4:24)
62. ¹³ あなたがたもまた、キリストにあつて、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。(エペソ人への手紙 1:13)
63. ²³ 主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』。(マタイの福音書 25:23)
- ¹⁵ もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。(ヨハネの福音書 14:15)